



# ZENFUREN

2013年10月4・5日

## 号外

全国国立大学附属学校連盟  
全国国立大学附属学校 PTA 連合会  
〒105-0001 港区虎ノ門 1-2-29  
虎ノ門産業ビル 8F  
TEL : 03-3591-2091  
FAX : 03-3591-2092

### 全附P連PTA研修会 第4回全国大会

## テーマ別分科会-2

### コミュニケーションスキルの活用方策

真剣な中にも和やかな雰囲気の中「コミュニケーション・スキルの活用方策」についてご講演頂きました。



立命館大学スポーツ健康科学部／スポーツ健康科学研究科准教授の山浦一保准教授に「コミュニケーションスキルの活用方策」～ほめ方、しかり方を考える～という演題でお話をお聞きすることができました。

子どもの潜在的なエネルギーを引き出すためには、身近な人の「見てくれている感」が大切で、見てくれているからやる気がでる、それが成長につながり、更に外界への挑戦、他者からの評価へとつながっていく好循環が生まれる。

子どもの自立・自律には、具体的な目標設定が大切だが、それだけでは不十分で、正しいと思える目標と、その正しさに納得できる意味づけが大切である。更には同じ目標、想いを共有した者どうしは好意をもち、そこに円滑なコミュニケーションが生まれる。我々親も対話の基礎体力をつける事が大切で、対話のレパートリーを増やすこと、それを使うこと、更にはそれがちゃんと伝わる事が大切である。

ほめると言うコミュニケーションにおいても、ただほめればよいのではなく、信頼関係があることが大前提で、信頼関係の築かれて



いない関係でほめられても効果がなく、信頼関係のもとで、ほめられることによって「見てくれている感」を生み、好循環につながる。

その他、「表情のもつ力」や「力を引き出すコミュニケーション」、具体的なほめ方、励まし方等大変貴重なお話をお聞きすることが出来ました。

講演では先生自らの子どもとの体験や、具体的研究事例、目標指向の行動と関係指向の行動の二つの軸のマトリックス等を交えながら非常に分かり易く説明して頂きました。また、隣りどうし二人ペアになっての活動があったり等、真剣な中にも和やかな雰囲気の中での講演となりました。コミュニケーションスキルの活用方策は親子の関係に留まらず、先生と子ども、先生と保護者、ひいては職場でも同じ事が言えるそうです。私たちの「伝えたい」想いが確実に、ストレートに「伝わる」関係を築いていく努力が大切だと学び、非常に有意義な講演となりました。



上越教育大学附属小学校 PTA  
顧問 佐伯寿一 取材

